第８課　この最も小さな者

【暗唱聖句】

そこで、王は答える。『はっきり言っておく。わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである。』マタイ２５：４０

【日曜日・山上の説教の導入】

イエス様は山上の説教の冒頭で、８つの幸福について語られました。「幸いなるかな！～な人は…」と原文では倒置法で書かれてあり、「幸い」が強調されています。この８つ幸福からわかることは、イエス様はこの世で私たちが生きるということをしっかり見つめておられるということです。まるで世捨て人のようになるとか、信仰の世界とこの世の生活を切り離してはおられないと言うことです。その上で８つの幸福のうち４つ、「貧しい」「悲しみ」「飢え乾き」「迫害」は、この世的には幸福とは思われないようなことでした。しかし、神様の目から見たら、それらも幸福とつながっていくのだと語られたことは、驚くべきことでした。また残りの「柔和」「憐み深い」「清さ」「平和」は、神の子に与えられる愛の実を現わしています。

　このような幸いを生きる者たちは、世の光、地の塩として生きる者たちでもあります。世の光も地の塩も、努力目標ではなく、イエス様と共に生きる者たちにとっての自然な状態です。世の光・地の塩として周りに良い影響を与えていきます。つまり、クリスチャンとして幸せを生き、その幸せが周りにも良い影響を与え、神様を証していくことになるのです・。

【月曜日・善をもって悪に勝つ】

「悪に負けることなく、善をもって悪に勝ちなさい」ローマの信徒への手紙12章 21節

イエス様が生きておられた時代の人々の生活は過酷なものでした。ローマ帝国の支配下にあり、生活の選択権がほとんどなく、重い税金がかせられ、その上でさらに宗教的伝統に押しつぶされそうな状態にありました。酷い目に合えば、どんな人でも冷静ではいられません。クリスチャンらしくない行動や態度を取ってしまうかもしれません。そのような状況を踏まえた上でイエス様は、「しかし、わたしは言っておく。悪人に手向かってはならない。だれかがあなたの右の頬を打つなら、左の頬をも向けなさい」（マタイによる福音書5章39節）と言われたのです。このような抑圧は日常的なことだったのです。わたしたちの周りには悪に満ちています。その影響を受けずに生きることはできません。イエス様が問題としたのは、いかに影響を避けるように生きるかということよりも、そのような悪に対して、善（愛）を持って勝ちなさいということでした。イエス様の教えは常に実際的であり、現実離れした教えではなかったことに注目する必要があるでしょう。

【火曜日・善いサマリア人】

「…「先生、何をしたら、永遠の命を受け継ぐことができるでしょうか。」 イエスが、「律法には何と書いてあるか。あなたはそれをどう読んでいるか」と言われると、彼は答えた。「『心を尽くし、精神を尽くし、力を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい、また、隣人を自分のように愛しなさい』とあります」ルカ10：25～27

隣人を愛するとは、旧約聖書（レビ19：18）の中でも教えられていることでした。そのため人々は隣人とは誰のことかと度々議論していたようです。そんなあるとき、一人の律法学者が「わたしの隣人とは誰ですか」と具体的な答えを尋ねてきたのです。そこで語られたのが有名な善きサマリア人のたとえでした。そのたとえ話の中で、傷ついたユダヤ人を同胞の祭司やレビ人が助けず、敵であったサマリア人が助けたのですが、イエス様は「だれが追いはぎに襲われた人の隣人になったと思うか」（ルカ10：36）と尋ねられます。律法学者が「わたしの隣人とは誰ですか」と中心に自分がいます。しかし、イエス様は「だれが追いはぎに襲われた人の隣人になったと思うか」と、傷ついた人を中心にしています。考え方が根本的に違うのです。わたしたちの助けを必要としている人すべてが隣人となる、これはイエス様の教えでした。

【水曜日・金持ちとラザロ】

神様はある人を豊かにされる一つの目的は、その豊かさをもって貧しい人を助け、それによって神様の愛と栄光を証するためでした。ルカ12章に、ある年大豊作だった畑の主人のたとえ話で出てきます。畑の主人は「さあ、これから先何年も生きて行くだけの蓄えができたぞ。ひと休みして、食べたり飲んだりして楽しめ」と』（ルカ12：19）と喜びます。ところが、神様は「愚かな者よ、今夜、お前の命は取り上げられる。お前が用意した物は、いったいだれのものになるのか」（ルカ12：20）と言われ、実は命も財産も神様から来ているのだということを教えています。またルカ16章には金持ちと貧しいラザロのたとえ話が出てきます。ラザロは死ぬと天使たちによって宴席にいるアブラハムのすぐそばに連れて行かれ、金持ちが死ぬと苦しい陰府に落とされました。この地上で困難な生活を送らなければならなかったとしても、来るべき世界で素晴らしい祝福が待っているという希望を教えているのと同時に、お金はすべて自分の物だと思って困っている人に憐みを施すことをしなかった金持ちの末路を警告しています。神様に祝福され、たくさんの財産が与えられている人は、この地上では楽な生活を楽しむことができる代わりに、弱者に対する義務もあるということです。

【木曜日・この最も小さい者】

マタイ24章において、イエス様はエルサレムの崩壊と世が終わる前の前兆についてお語りになり、だから「目を覚ましていなさい」と言われました。25章に入ると、10人の乙女とタラントのたとえ話をされました。これは世の終わりに際してどのように生きるべきなのかをたとえたものでした。そして、「人の子は、栄光に輝いて天使たちを皆従えて来るとき、その栄光の座に着く。そして、すべての国の民がその前に集められると、羊飼いが羊と山羊を分けるように、彼らをより分け、羊を右に、山羊を左に置く」（マタイ25：31～33）と続けられました。右と左に分ける基準が、「最も小さい者の一人に」わたしたちが何をし、また何をしなかったかなのです。「飢えていたときに食べさせ、のどが渇いていたときに飲ませ、旅をしていたときに宿を貸し、裸のときに着せ、病気のときに見舞い、牢にいたときに訪ねる」ように、小さい者のために最後の最後まで生きること、これにより真のクリスチャンであるのかないのかが、はっきりと分かれるのです。

行いによって救われるのだと言われているように思うかもしれませんが、そうではありません。「この小さい者の一人にしたのは、わたしにしたのである」とイエス様は言われました。つまりこれはイエス様との関係がどのような関係にあるのかを教えているのです。つまり、イエス様が再び地上に戻って来られるとき、イエス様としっかりとした関係を築いている人は、小さな者の一人が困っているときに、手を差し出さずにはおれないのです。世の終わりの恐ろしい前兆について語る中で、このようなメッセージを最も大切なこととしてイエス様が語られていることは、とても興味深いことです。